

# 2010年度 環境活動レポート

(2010年7月1日～2011年3月31日)



## 山ニシステムサービス株式会社

〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13  
TEL018-839-2881 FAX018-839-0051

発行日 平成23年10月 1日

# 1. 環境方針

## <基本理念>

山二システムサービス株式会社は、地球環境保護への取組みを社会的重要な課題であると認識し、情報産業におけるソフトウェア開発や諸サービスの提供などの事業展開において、企業活動と地球環境の調和を目指し、資源の有効活用と環境汚染の予防を認識し積極的な活動を行うことを誓約します。

## <活動指針>

1. 地球温暖化防止のために、二酸化炭素の排出削減の推進に努めます。
  - ① 事業所内の電力消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
  - ② 事業所内のLPG消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
  - ③ 営業車の自動車燃料消費に伴う二酸化炭素排出量削減に努めます。
2. 限りある資源の有効活用のため、廃棄物削減と資源の有効利用を推進し循環型社会への対応に努めます。
  - ① 事業所内の一般廃棄物を分別し排出量の削減を図ります。
  - ② リサイクル可能な物を一般廃棄物に混入しないよう努めます。
  - ③ 事務用品等のグリーン購入に努めます。
3. 水の適正な利用・適正な排水処理のため、事業所等における節水に努めます。
4. これらのことを実施しながら環境負荷に配慮したソフトウェア開発に努めます。

地球環境保護への取組みにおいては、環境関連法規やシステムの構築に努め当社が約束した事項を遵守し、環境経営システムの適切な維持管理に努め、継続的な改善を図ります。

また、地域での環境保全活動への積極的な参加等地域貢献に努め、環境活動レポートの公表などにより地域との環境コミュニケーションに努めます。

制定日 平成22年 7月 1日

最終改訂日 平成22年10月 1日 (第2版)

山二システムサービス株式会社

代表取締役 西 村 紀一郎

## 2. 組織の概要

### 2-1. 事業所名及び代表者名

- 山二システムサービス株式会社 ■ 代表取締役 西村 紀一郎

### 2-2. 事業の概要

- システム開発、コンサルティング及びソフトウェア開発
- システム導入、保守及び運用管理
- システム運用管理業務及び電算業務の受託
- コンピュータ関連業務
- グループウェア、電子化ソフトの販売
- コンピュータ機器販売
- 電子機材・通信機器等の物品販売および技術サービス

### 2-3. 所在地と連絡先（担当者）

- 住 所：本社 〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13  
(連絡先：TEL018-839-2881 FAX018-839-0051 Email：webmaster1034@yamani-system.co.jp)  
青森営業所 〒030-0946 青森県青森市古館一丁目 12-10  
(連絡先：TEL017-741-1384 FAX017-741-9457)
- 担当者：環境管理責任者 大野 慎  
環境管理事務局 加藤 統義

### 2-4. 事業の規模

- 創 業：昭和 51 年 1 月 ■ 資本金：2000 万円  
■ 売上高と従業員数：

事業年度	2008 年 (2008.4~2009.3)	2009 年 (2009.4~2010.3)	2010 年 (2010.4~2011.3)
売上金額（百万円）	685	664	642
従業員数（人）	68	65	54

注) 売上金額は、当社会計年度（当年 4 月～翌年 3 月まで）による。

## 3. 対象範囲と対象取組期間

### 3-1. 認証・登録範囲

認証登録 秋田本社（従業員数 42 名）

拡大範囲 平成 26 年まで青森営業所（従業員数 11 名）取得に向けて拡大予定

### 3-2. 環境活動レポートの対象取組期間

- 平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

※今回のレポートは、当社会計年度（4 月～3 月）に合わせ、毎年 6 月に発行していきます。

## 4. 環境目標

### 4-1. 環境目標項目の選定

環境負荷の自己チェックと環境への取組の自己チェック、ならびに環境方針との整合性を図り、次の4項目について、環境目標を設定しました。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1) 二酸化炭素排出量 | 2) 廃棄物排出量    |
| 3) 総排水量     | 4) 環境配慮製品の販売 |
| 5) グリーン購入推進 |              |

### 4-2. 主な環境負荷の実績

2010年度（H22.4～H23.3）当社における主な環境負荷の実績は下表に示す通りです。

二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )			廃棄物排出量 (t)		総排水量 (m <sup>3</sup> ) (水使用量)
電力 (係数:0.378)	LPG	ガソリン	一般廃棄物 (7～3月)	産業廃棄物	
64,890	47	27,946	553	1,760	184

### 4-3. 環境目標（短期・中長期）の設定

二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量の必須3項目ならびに自主設定項目について、単年度目標ならびに中長期目標を下記のように設定しました。

	単年度目標	中長期目標
	2011年度（H22.4～H24.3）	2012～2011年度（3年間）
■二酸化炭素排出量	2010年度比 2.5%削減	2011年度比 3%削減
■廃棄物排出量	2010年度比 2.0%削減	2011年度比 5%削減
■総排水量（水使用量）	2010年度比 2.0%削減	2011年度比 2%削減
■環境配慮製品の販売	2010年度比 10%増	2011年度比 5割増
■グリーン購入推進	2010年度比 5.0%増	2011年度比 10%増

### 4-4. 2011年度（取組対象期間）環境目標値

4-2. の考え方に従って、2010年度実績値を基に、2011年度の具体的目標値（暫定）に下記のように算出しました。（一般廃棄物のみHH22.7～H23.3実績）

	2010年度実績 (H22.4～H23.3)	2011年度目標 (H23.4～H24.3)
■二酸化炭素排出量	92,863 kg-CO <sub>2</sub>	91,025kg-CO <sub>2</sub>
1) 電力	64,890 kg-CO <sub>2</sub>	62,294kg-CO <sub>2</sub>
2) LPG	47 kg-CO <sub>2</sub>	47kg-CO <sub>2</sub>
3) ガソリン	27,926kg-CO <sub>2</sub>	27,786kg-CO <sub>2</sub>
■廃棄物排出量		
1) 一般廃棄物	7～3月 0.553 t	0.730 t
2) 産業廃棄物	1.76 t	1.70 t
■総排水量（水使用量）	184m <sup>3</sup>	180m <sup>3</sup>
■環境配慮製品	1品目	2品目
■クリーン購入推進	購入の推進	購入の推進

## 5. 主な環境活動計画

### 5-1. 二酸化炭素排出量の削減

#### 1) 電力使用量の削減

- 室内温度は、冷房時 28℃、暖房時 22℃の設定とする
- PC はスリープモードに設定する
- 昼休み及び使用していない箇所の不要な照明を消灯する
- 電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する
- 週 1 日 NO 残業日を設ける

#### 2) LPG 使用の削減

- 夏季期間の湯沸し器の使用を制限する

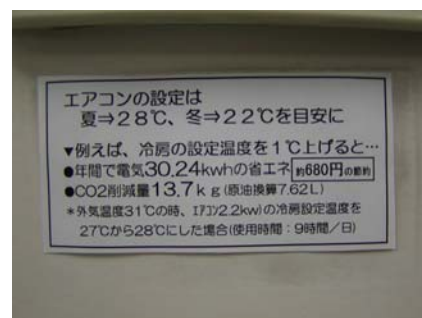
#### 3) ガソリン・軽油使用量の削減

- エコドライブの徹底
- 無事故プログラムドライブレコーダによりエコ運転の指導を行う
- 車両日報により、始業点検、走行距離、燃費を把握する
- 整備工場にて 3 ヶ月に 1 回のスケジュール点検等により、車輛の完璧な状況を保つ
- 車両入れ替え時は、エコカーを優先して購入する



### 5-2. 廃棄物排出量の削減

- 廃棄物の定量の把握をする
- 分別を徹底し、可能な限りリサイクルする
- 外部からのゴミはなるべく持ち込まない
- 両面コピーや縮小コピーの励行



### 5-3. 排水量（水使用量）の削減

- 手洗い時など、水を出しっぱなしにしない
- 手洗い場などへ節水ステッカーの貼り付け



### 5-4. 環境配慮製品の販売促進

- 環境配慮製品の営業活動の推進（無事故プログラム DR・E-COOL 照明）
- 取扱っている環境配慮製品のホームページによる PR

### 5-5. グリーン購入推進

- エコ・省エネ製品の把握
- エコマーク認定商品を購入する



## 6. 環境目標の実績 (H22.4~H23.3)

環境目標の達成状況は下記に示すとおりでした。

### 6-1. 二酸化炭素排出量

#### 1) 全体 (目標: 1%削減)

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
90,240 kg-CO <sub>2</sub>	89,484 kg-CO <sub>2</sub>	92,863kg-CO <sub>2</sub>	▲2,603 kg-CO <sub>2</sub>	▲2.9%	×

【コメント】二酸化炭素排出量全体で、昨年度同期比、2.9%増加と目標を達成することはできませんでした。原因として、電気使用量の増加が大きく深く反省するところです。

#### 2) 電力使用 (目標: 1%削減)

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
60,530 kg-CO <sub>2</sub>	59,924 kg-CO <sub>2</sub>	64,890kg-CO <sub>2</sub>	▲4,360kg-CO <sub>2</sub>	▲7.2%	×

【コメント】昨年度同期比で、7.2%増加し、目標を達成できませんでした。室内温度の設定・照明の消灯・PCのスリープモード設定など努力していましたが、予想を上回る電気使用量増加の原因としては、営業時間を越えて社内に残っている従業員がいることが原因と考えられますので、早々に調査し管理を徹底させると共に、NO残業日の設定も実現させたいと思います。

但し、12月以降は、各月とも前年同期月より電気使用量が下回り、活動の意識が従業員にも行き渡ってきたのでと考えます。

#### 3) 灯油・LPG使用 (目標: 1%削減)

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
81 kg-CO <sub>2</sub>	80kg-CO <sub>2</sub>	47kg-CO <sub>2</sub>	34kg-CO <sub>2</sub>	42.0%	◎

【コメント】LPGは給湯器にしか使用しておりません。昨年度同期比で42.0%削減しました。無駄な使用や種火の使用など、無駄な使用をしない活動成果が出たと思います。

#### 4) ガソリン・軽油使用 (目標: 0.5%削減)

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
29,629kg-CO <sub>2</sub>	29,480kg-CO <sub>2</sub>	27,926kg-CO <sub>2</sub>	1,703 kg-CO <sub>2</sub>	5.7%	◎
燃費 13.4km	燃費 13.5km	燃費 13.8km	0.4km	1.5%	◎

【コメント】自動車燃料の使用量は昨年度同月比より増え、二酸化炭素排出量としては5.7%の削減、自動車燃料の削減目標については使用量より燃費を重要視することを課題としており、燃費では昨年度同期よりガソリン1ℓあたりの走行距離では0.4kmと3.0%燃費が向上しましたので達成できたと評価できます。

※1…削減量・削減率の欄において、▲印は、マイナス(増加)を示す。

※2…評価: ◎→達成できた、○→削減したが目標未達、△→昨年度とほぼ同じ、×→昨年度より増加

## 6-2. 廃棄物排出量

### 1) 一般廃棄物（目標：分別の徹底と現状把握）

7月から、生ゴミ・ペットボトル・ビン・缶・紙ダンボール・新聞紙など、6種類の分別収集を開始し、データ収集を始めたところです。

7月の活動開始に比べると後半はビン・缶・ペットボトルの再利用可能な廃棄物の量が著しく減り、それは再利用可能な資源は回収に出すという意識が社員に定着したからだと思えます。

コピー機を新しくし両面コピーの徹底や、メールの利用促進などの廃棄物削減に向けた取組は継続中ですが、数値目標の設定は平成23年度（H23.4～）からになります。

■紙類：段ボール類・新聞紙・廃コピー用紙・雑紙類・シュレッダー屑（再資源化）

■ビン・缶・ペットボトル（再資源化）

■その他の可燃ゴミ：塵芥類・紙くず類・布類など（焼却処理）

対象期間内における排出量の実績値は下記のとおりです。

[単位：kg]

廃棄物の種類	排出量	廃棄物の種類	排出量
生ゴミ	277	缶	19
ペットボトル	37	紙・段ボール	158
ビン	23	新聞紙	39

### 2) 産業廃棄物（目標：1%削減）

事業の内容からして生産過程において定期的に排出される産業廃棄物はない業種ですが、前年度よりも増えた要因としては、3月に社内の機器を入替えたときに、古い機器を廃棄したためです。

産業廃棄物が発生した場合は、分別の徹底とリサイクル率を向上させ目標をクリアするよう取組を進めていきます。

[単位：t]

廃棄物区分	処理方法	排出実績	
①廃プラスチック類	中間処理粉砕	0	
②金属くず（有価物）	中間処理粉砕	0	
廃棄物合計...B		1.76	
リサイクル率：A÷(A+B)×100	0%	評価※3	×

※3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達

## 6-3. 総排水量・水使用量（目標：0.5%削減）

総排水量は、地下水は使用していないので、水道の使用量と等しくなります。昨年度と比べ、31.3%削減し、手洗い場等に節水の表示を行うなどの啓蒙活動の成果が表れているものと思われます。

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	削減量※1	削減率	評価※2
268m <sup>3</sup>	266 m <sup>3</sup>	184m <sup>3</sup>	84m <sup>3</sup>	31.3%	◎

※1…削減量・削減率の欄において、▲印は、マイナス（増加）を示す。

※2…評価：◎→達成できた、○→削減したが目標未達、△→昨年度とほぼ同じ、×→昨年度より増加

#### 6-4. 環境配慮製品の販売

環境配慮製品販売は、昨年度はトナーカッター1品目しか取扱っていませんでしたが、今年度はドライブレコーダDRとE-COOL照明を取扱い3品目となりました。

特に省エネ照明のE-COOLは、下半期より地方自治体を始め多くの取引があり驚異的な販売量となりました。E-COOLの売上伸びたのは、民間では環境活動の維持整備及びコストダウンと、公共機関に於いては率先した環境保護活動の推進が行われ、取り付費用LEDと違い、従来の蛍光灯の設備を利用できるという利点が考えられます。

販売実績としてはすでに今年度目標の18倍の売上があり、来年度は1000万の売上が期待できます。

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	評価※3
10万円	20万円	363万円	◎

※

3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達



#### 6-5. グリーン購入推進

グリーン購入については、本年度予算を考慮し、一般商品とエコマーク商品の購入価格を比べて10%以上の差がある場合は購入を控えたため、目標より購入数が少なかったが、今後はグリーン購入率の向上をはかります。

2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	評価※3
0品目	5品目	2品目	△

3…評価：◎→十分達成できた、○→達成、△→昨年度とほぼ同じ、×→目標未達



## 7. 環境活動計画の取組結果の評価 ならびに次年度の取組内容

### 7-1. 環境活動計画の取組状況の評価

○…十分に取組んだ △…ある程度取組んだ ×…取組不十分（未実施） -…評価保留

取組項目	具体的活動計画	評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	■室内温度は、冷房時 28℃、暖房時 22℃の設定とする	○
		■PC はスリープモードに設定する	○
		■昼休み等及び使用していない箇所の不要な照明を消灯する	○
		■電気製品の買い換えの際は、省エネタイプの機器を選定する	○
		■週一日 NO 残業日を設ける	×
	L P G 量削減	■夏季期間の湯沸し器の使用を制限する	○
	ガソリン使用量の削減	■エコドライブの徹底	○
		■車輻に無事故プログラムドライブレコーダを取り付けエコ運転の指導を行う	-
		■車両日報により、始業点検、走行距離、燃費を把握する	○
		■整備工場にて3ヶ月に1回のスケジュール点検等により、車輻の完璧な状況を保つ	○
■車輻入れ替え時は、エコカーを優先して購入する		-	
廃棄物排出量の削減	■廃棄物の定量の把握をする	○	
	■分別を徹底し、可能な限りリサイクルする	○	
	■外部からのゴミはなるべく持ち込まない	○	
	■両面コピーや縮小コピーの励行	○	
排水量 (水使用量) の削減	■手洗い時など、水を出しっぱなしにしない	○	
	■手洗い場などへの節水ステッカーの貼り付け	○	
環境配慮製品の販売	■環境配慮製品の営業活動の促進（トナーカッターの販売・無事故プログラムDR・E-COOL照明）	○	
	■取扱っている環境配慮製品のホームページによるPR	○	
グリーン購入の推進	■エコ・省エネ製品の把握	○	
	■エコマーク認定商品の購入	△	

## 7-2. 次年度の取組内容（方向性）

東日本大震災による電力不足も考慮し、電力の軽減に重きを置き取組むと共に、弊社主力環境配慮製品である E-COOL の販売促進を行います。

# 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟の有無

2011年3月31日付において、当社に関わる環境関連法規等の遵守状況を確認しましたが、違反状態は認められませんでした。また、関係当局からの違反等の指摘や指導、あるいは、外部からの指摘・苦情・訴訟についても、過去3年間一度もありません。

# 9. 代表者による全体評価と見直しの結果

## 9-1. 環境経営システムの有効性の評価

今回、地球温暖化防止対策の活動としてのシステムを、会社全体の目標として構築すると共に併せて、更なる経費軽減を図ることを目的に、エコアクション21認証取得活動に取り組みました。

昨年7月より活動を開始して以来、9ヶ月が経過しましたが、正直、エコアクション21の環境マネジメントシステムの要求事項を十分に理解しているとは言い難い状況でのスタートでしたので、認識不足の点が多々あり、対応が後手に回り、積極的な取組できないまま、過ぎてしまったような気がします。

昨年より当社で取扱っている環境配慮製品のE-COOLが、前年度よりも18倍もの売上を達成したことと、LPGおよび水の使用量が大幅に軽減され、これは社会的に環境保全への意識の向上と、当社の環境方針に沿った取組の成果であると評価しております。

今後、環境管理責任者を中心として、今年度の活動結果を踏まえて、PDCAサイクルを確実に実行し、更なる環境意識の向上とコスト削減の取組に努めていく所存です。

## 9-2. 環境経営システム変更の必要性

現段階で、環境方針、環境目標、環境活動計画等、システムの主要部分について、変更の必要はないと判断していますが、環境目標の設定については22年度の達成結果を考慮してレベルアップさせていきたいと思っております。

## 9-3. 次年度以降の取組の方向性

今年度は、登録審査を受けるための暫定的なものであり、廃棄物などは前年度の数値がなく十分なものとはいえませんでした。

本格的な軽減活動取組は23年度よりとなりますが、22年度の達成数値を基にして計画された23年度目標達成のために、全社一丸となってエコアクション21の活動に取組めます。

この環境活動レポートは、ご希望の方に差し上げています。ご希望の方は、本社窓口でお申し出いただくか、下記にご連絡下さい。また、エコアクション21認証取得後は、エコアクション21中央事務局のHP (<http://www.ea21.jp/>)でもご覧いただけます。

〒010-1427 秋田県秋田市仁井田新田二丁目 16-13  
山ニシステムサービス株式会社  
TEL018-839-2881 FAX018-839-0051  
Email : [tomis@tomis-med.jp](mailto:tomis@tomis-med.jp)